

JSEKM

平成 23 年度 第 1 回幹事会報告

と き：2011 年 12 月 10 日

ところ：昭和音楽大学・北校舎 3F 会議室

出席者 柳田孝義 下八川共祐 吉田泰輔 森下絹代 阿方 俊 生頼俊秀
小倉隆一郎（文責）

協議題目

1. 第 7 回大会出欠および収支

大会出席者と収支について、生頼俊秀事務局補佐から報告があった。

出席者は、62 名（正会員 39（昨年 45）、賛助会員 5、一般 1、海外関係者およびゲスト 17）で、演奏者が 31 名。学会員数に比べると参加率はよいが、将来、一考すべきである。

収支 前回に比較して、経費が約二万円増加した。現在、学会会計は一時的にマイナスとなっているが、これは会費納入が遅れているためであり、先週、督促状を送付した。

現在の大会費の一般 3,000 円、学生 1,500 円を下げて参加しやすくしてはどうかとの意見が出て、次回に今後に向けた参加費の検討を行う。

また、会計年度が 4 月から始まり、大会（総会）は 10 月または 11 月に行われているため、大会経費との関わりが分かり難い。これも今後検討すべき問題である。

2. 第 7 回大会内容

1) 全体（海外からの参加者のよい点と課題など）

大会実行委員長であった学芸大学の中地雅之准教授および運営担当の鈴木康弘氏より提出された意見を参照して討議した。

学芸大の高澤ひろみピアノ主任より、演奏会のアンサンブルについて、予想以上に電子キーボードに違和感がなかったとのコメントがあった。

また高萩先生より、① 実質的で良かった、② 中国がここまで進展しているのに驚かされた、③ このような国際関係をどのように発展させていくかが今後の課題である、とのコメントがあったとの報告があった。

大会後、中国・台湾からの参加者は、昭和音大、ヤマハ銀座店を訪問するなど、精力的に行動して帰国。自分たちが学ぶべきことが多々あり、今後の交流に期待したいという礼状が事務局にきている。

2) 基調講演

郭宗愷先生(台湾)の講演は日本のみならず中国参加者に強いインパクトを与えた。台湾における事例を日本でどのように役立てるかが課題。ピアニスト・指揮者である郭教授が電子楽器の導入に奮迅したことに特徴があり、このような活動が人材の力によることが極めて大きいことが、改めて認識された。

3) 事例発表

王永剛（ハルピン）、王晓蓮（北京）、譚芸民（西安）、謝及（広州）の4名それぞれの特徴的な発表が聞けた。時間の制約があり、発表者がかなり内容を切り詰めたと思われる。当初、事例発表は通訳によって成否が左右されるとの危惧の念があったが永田瑞木さんの適切な通訳でそれは単なる危惧に終わった。一方において、中国における音楽事情は激しく変化しつつある時期と考えられる。この点からは、学術的な研究の体制がもう少し整備されてから、積極的な交流を始めてはどうかという意見もあった。大会後、APEKAの会議があり、日本・中国・台湾などアジア諸国との音楽交流をどのようにすすめていくかということが話し合われたという報告があった。

4) 研究発表

Room-1の電子オルガン関連発表は、レベルの高い活動報告とよく整理され今後を暗示する内容が聞けた。

MLブースでは通訳担当者の配慮もあり、運営は良好であった。中国・台湾ではMusic Laboratoryの名称ではなく、グループ・ピアノレッスンが一般的に使われており日本でも今後この呼称について議論しなければならない。

その他電子キーボードのブースでは、歴史的な発表と福祉分野への応用で充実したユニークな発表が目された。

5) 研究コンサート

今まで学会の目玉的な催しとして開いてきたが、同時にレベルアップの問題などで、一部の会場校では負担になっている。将来は、今までのような演奏会だけでなく別の方法(新しい奏法の事例発表など)も検討する時期にきている。メーカーとのコラボレーションで、電子楽器新機種デモ・解説もあり得る。研究コンサートを実施するかどうかについて、今後検討を要する。

3. 会場・運営関連

1) 会場（PA、機材なども含む）

PAについて当初、若干のトラブルがあったが、準備段階でつめのリハーサルがあればよりよいものになった。

2) アルバイトを含む運営

仕事内容のマニュアルを担当学生が作成するなど、一部客席のレイアウトの変更などがあったが、全体としてはスムーズであったとあってよい。

4. 第8回大会に向かって

第8回大会会場について

- ・ 昨年までの5年の間隔をおいてのオーダーは難しくなった。関東で大会を開催する場合、開催校の都合で、定期的な5年のサイクルでの開催は難しい。来年度は国立音楽大学、洗足学園大学、尚美大学、文教大学での開催の可能性を早急に探る。
- ・ 地方での開催の可能性
九州(熊本)や浜松での大会開催の可能性は考えられるが、動員の面で今後の課題とする。
- ・ その他
会員の募集について、今年、全国の保育養成校へ大会案内を郵送したが、具体的な動きには結びつかなかった。今後の呼びかけ方には一考を要するのではないか。

5. 選挙

来年（2012年）は選挙の年であるが、幹事の若返りが必要であり、これに対する対処策を早急に考えて行くべき時がきている。

また、選挙とは直接的関係はないが、学会の将来のために支部の設置や部会の活性化もより積極的に図っていく必要があるのではないかとの意見が出た。

6. 海外情報

電子オルガン関係として、阿方事務局長から次の情報があった。

- ① 中国：APEKA（Asia-Pacific Electronic Keyboard Association）の「第2回電子オルガンコンクール」が、2月8日～11日に香港で開催され、日本からの参加者を募っている。
- ② イタリア：プレジジョ音楽祭で今年の「トスカ」に続き来年は「ボエーム」の上演が8月6、8、10、12、14日の5回公演の情報が入っている。詳細未定。
- ③ 韓国：ソウル室内オペラアンサンブル「ドン・ジョバンニ」上演に日本人電子オルガン奏者依頼の相談があった。日程とホールの詳細未定

7. その他

- ① 平成音楽大学から後援願い
- ② 雑誌「音楽の世界」への第7回大会レポート記事 *添付資料参照
- ④ 学会誌第6号の在庫切れのため50冊を緊急印刷することが了承された。
- ⑤ 第2回幹事会日程は3月17日(土)昭和音楽大学北校舎で11:00～13:00を予定